

日中友好記念作品

舞劇

朱 踏 鳥

Toki
Dance Drama



美しく、そして儚く、
時空^{とき}を越えた永遠の愛を、再び。

公演特設サイト



〈公演日程〉2025年

3月23日(日) 2:00p.m.
6:00p.m.

Niterra日本特殊陶業市民会館 入場料金:

3月24日(月) 2:00p.m.
6:30p.m.

フォレストホール

S席¥10,000 A席¥9,000 [全席指定]〈税込〉

チケットのお求めは:チケットぴあ [Pコード:530-414]

ローソンチケット [Lコード:43215]

Niterra日本特殊陶業市民会館(窓口販売のみ)、栄プレチケ92 ☎052(953)0777、

芸文プレイガイド ☎052(972)0430、名鉄ホールチケットセンター ☎052(561)7755 <https://www.e-meitetsu.com/mds/hall/>

お問い合わせ:MIN-ON 中部センター ☎052(325)5495

※未就学児童の入場は固くお断りいたします。

主催:MIN-ON 共催:中国人民対外友好協会

後援:中華人民共和国駐日本大使館、一般財団法人日本中国文化交流協会、公益社団法人日本中国友好協会、

一般社団法人日中協会、一般社団法人中部経済連合会

協賛:株式会社 アルプ、東日印刷株式会社



1979年に創立され、舞踊、演劇、歌、器楽演奏などの総合的なパフォーマンスを非常に高いレベルで行っている、中国が誇るパフォーマンス・カンパニー上海歌舞団が、8年ぶりに来日する。演目は、前回の日本公演で大好評を博した『朱鷺』（初演2014年）。

朱鷺は、日本では2003年に一度絶滅し、その後、中国からゆずられた個体を、佐渡トキ保護センターを中心に増やし、現在、500羽以上がほぼすべて佐渡島で生息している。中国から提供された個体で日本に復活した朱鷺を題材にした、この優れた作品『朱鷺』を日本で上演することは、“芸術作品の朱鷺”の日本へのプレゼントであるとも言える。

上海歌舞団は総合的なパフォーマンス・カンパニーであると上述したが、『朱鷺』は、バレエ、あるいは、コンテンポラリーダンスと言えるような舞踊作品である。台詞も歌もなく、身体表現の美しさ、美術の情景の美しさを徹底的に追究している。

まず特筆したいのが、ダンサーたちの舞踊技術の高さと肢

体の美しさ。バレエのテクニックを高いレベルで習得しており、しかも、所作が女性はおやかで繊細、男性はスマートで上品。

『朱鷺』は、朱鷺役の女性たちの踊りが主要な部分を占めるが、彼女たちはその繊細な所作で、ぴくぴくと優しく頭や腕を震わせ、しなやかに背中を反らせ、朱鷺の動きを緻密に研究した振付を見事に描き切っている。バレエ『白鳥の湖』も白鳥のシーンで白鳥の羽ばたきの腕の動きを行うが、『朱鷺』の振付は、もっと鳥そのものの動きを想起させ、しかも、それを極めて美しいフォルムに昇華している。

美術の魅力も忘れ難い。とくに、第1幕と終幕の羽衣をつけた朱鷺の姿。白い薄衣の大きなマントをふんわりと揺らしながら何人もで回転するシーンなど、息を飲むほどに幻想的。衣裳の朱鷺色の淡いピンクも、絶滅危惧種のピュアな儚さを感じさせ胸打たれる。

舞踊評論家／舞踊史家 村山久美子

日中友好記念作品

舞劇

朱鷺

Toki
Dance Drama



物語のあらすじはこちら

上海歌舞団プロフィール

1979年6月に創立された上海歌舞団は、民族舞劇、舞踊、歌舞、声楽、器楽作品を創作・上演する中国を代表する総合芸術団体です。伝統的な民族歌舞団としてではなく、中国の伝統舞踊にクラシックバレエやモダンダンスを取り入れ、多彩な踊りの要素を融合した舞台が目立っており、驚異的なテクニックと繊細な表現力を併せ持ち、伝統と現代性を見事に融合させた作品の数々は、中国ダンス界の先端をゆくコンテンポラリーな表現で世界中から高く評価されています。日本とのつながりも深く、2005年はオーチャードホールで「霸王別姫〜ある愛の伝説〜」を上演し、07年に東京・大阪で上演された「WILD ZEBRA」は、現代の中国舞踊界と音楽界のパワーが結集して生まれた傑作舞劇として評判になりました。日中友好記念作品として、日中友好のシンボル「トキ」を題材とした舞劇「朱鷺」は、日本国内で大好評を博したのをはじめ、中国国内のみならずアメリカでも絶賛されました。

